

いじめを考える



ときなんっ子人権集会 2020.12.7

保護者の皆さん！たくさんの愛のメッセージ、ありがとうございました。



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第8号 —
2020.12.23

今や、いじめの認知とその対応は学校が負うべき大きな責務となっている。本校も、生活アンケートに基づいた相談活動、さらに保護者対象のアンケートも実施し、幅広くいじめの把握に努めている。そして、今年はこのいじめ問題に向き合うべく「いじめを考える人権集会」を開催した。中3の花田さんが書いた作文「いじめのスパイラル」を題材に、子どもたちに司会進行を預けた話し合いの場をもった。



『小中高のいじめ 61万2496件で最多 小学校は5年前の約4倍に』
去る10月22日。文科省は昨年度の問題行動調査の結果を発表した。61万件を超えるいじめのなかで、小学校は48万件超。全体の約8割を占め、さらに増加傾向にあるという。発達段階の違いこそあれ、小学生の実態に不安がよぎる。
文科省の分析によれば、「積極的な認知の必要性が学校現場に浸透した結果」とある。

そのなかでこんな論点が生まれた。「自分がいじめにあつていたら、果たしてそれを親に相談できるか、できないか」
双方意見が割れつつ、次のような意見が相次いだ。
A. 早く相談すればと思うけど、自分の立場だったら親に心配かけるし、そのあと大ごとになっていくのが嫌だから私は言えない。
B. たと言えたとしても、お父さん、お母さんが、どうするかと考えると、言えなくなってしまう。
C. 言ったとしたら、親がケンカして、他のだれかに迷惑をかけてしまうから言えない。
親を気遣う子どもたちの意見に、思わず自分の幼少期が重なる。私自身も学校であった嫌なことを、親に話せない子どもだったのだ。
作文のなかで花田さんは、悩んだ挙句、学校のアンケートで悩みを伝え、両親にも打ち明けた。その様子をこう綴っている。
『先生はすぐに家に来てくれました。そして両親は、「よく頑張ったね」と、泣きながら背中を撫でてくれました』
子どもたちの声をしっかり受け止めたと思う。そして、そのわずかな変化に気づく大人でいたいと思う。
『大人もみんなTEAM ときなん 君たちの応援団だよ』
保護者から届いた愛のメッセージ。私自身もしっかりと胸に刻み、大切な常南っ子の応援団でいたいと思う。